十二月十日 大阪毎日新聞

賣手
株式會社 千代田組支店
大阪市南區安堂寺橋通二
船場八九三・九八四

警官に固められ乍ら 百五十名就業

休業明けの藤永田造船所

罷業は不問に附するといふ會社側

藤永田造船所では三日間の休業が明けて四日目の十二日から豫定通り開場するとなり定刻の朝七時本工場も敷津工場の方も同時に大門を開いて就業者の入場を待受けた之より先會社側では各工場を始め附近の辻々へ左の貼紙を出した

本日の入場者は十一日迄の就業申込者に限り遅刻しても差支なし、但し給料は九日より十一日までの三日間は從前支給せる勞銀の半額分とし十六日午前十時から午後三時までに各工場において支拂ふべし出頭は本人に限る

かくて各工場には定刻の七時から三々伍々相續いて入場し中には十は二階の演藝場内に於て協議會を開き今後目的の貫徹に努めると同時に一層團結を堅くする事を申合せて午後一時半散會したが更に十三日は午前八時朝日倶樂部で勢揃ひをなし市内の重立つた神社佛閣に參拜し奉告祭を行ふ筈で參拜すべき箇所は集合の際發表される筈である

藤永田爭議 批判演說會

天王寺公會堂で

十一日來阪した友愛會長鈴木文治氏は十二日午前十時半神戸に向つたが同夜聚樂館における友愛會神戸聯合會主催の演說會に臨み一泊の上十三日午後歸阪同夜天王寺公會堂において開催の友愛會大阪支部主催の藤永田爭議批評演說會に出演の筈で當夜は鈴木氏を始めとし賀川豐彦、木村錠吉、阪口義治諸氏出演の筈だと因に友愛會大阪支部では主事西尾末廣氏が其筋に檢束中なので今回木村錠吉氏を主事に選定したが木村氏は「自分は一身を賭して爭議の矢面に立つつもりだ」といつてゐる

罷業團應援

神戸勞働組合聯合會の決議

神戸各勞働組合聯合會の主催になる第二回勞働大會は十二日午後七時湊川勞働館で開會實行委員を代表して行政長藏氏が大阪に赴いて縣廳及藤永田造船所に折衝した顛末を報告し座長に關西勞働同盟會長須々木純一氏を推薦し友愛會の前田委員は左の決議文を朗讀した

決議文

大阪造船勞働組合が加入せる勞働爭議を極力應援するために罷工應援委員を派遣し第一回勞働大會の決議を徹底せしめん事を期す

右滿場一致拍手裡に決議し座長は寄附金の件を滿場に諮つて之が可決其方法は座長に一任する事となつた即ち

(一)後日大會參加の團體に於て寄附金を取纏める事(二)當日の會場で數個の箱を具て義捐金を受ける事

次で講演に移り大阪造船勞働組合員及び實行委員數名の演說があつて後岡成志、賀川豐彦、久留弘三、高山義三、鈴木文治諸氏の演說があり同十一時散會した

勞働問題演說會

向上會主催の勞働問題演說會は十二日夜市内北區天神橋筋六丁目市民館で開會今井嘉幸博士の「勞働運動の三旗幟」以下多數の演說があつたが時節柄とて聽衆は場外に溢るゝの盛況を呈し十時半無事散會した

十二月十日 大阪毎日新聞

寥々たる出勤者

再び門を閉ぢた藤永田

愈解雇の意嚮

三日間の休業を了へた藤永田造船所は十二日感開門して職工の出勤を待つたが本工場では僅に四名敷津分工場は三十六名に過ぎず頭で問題にならないので本工場は十一時頃無門を閉ざして潔門から出入した、猶初めより此の爭議に加はらなかつた第三工場の職工約百二十名も十二日は公休日であるので全部仕事を休んだ、會社側前野勞遣氏は語る

いよ〳〵今日から工場を開きましたが出勤者は極めて少數です、會社としては本日以後出勤せぬ職工は當然就職の意思なきものと認めて解雇しますから今日以後の賃銀は支拂ひません、罷業中の賃銀は會社は多大の犠牲を忍んで全額を支拂ひ三日間の休業中は半額宛を支給する事にし來る十六日に支拂ひます、解雇手當に就いては未だ決定してゐませぬが會社從來の慣例によると職工が自分の任意で罷めた時には與へない事にしてゐますから今度もそんな事になるかとも思つてゐます

一方職工側は例に依つて朝來聯絡居住の者は主出、市内居住者は三軒家上之町の朝日倶樂部に集合して結束を固めてゐる十三日晴天なれば職工全部は午前八時市電木津川堤河畔點の廣場に集合し示威行列を作つて市内の各神社佛閣を參拜の上最後に玉つて運動を進めて豫定である

因に十三日午後六時三十分より天王寺公會堂で開催される友愛會機械勞働組合主催の演說會には鈴木文治、賀川豐彦兩氏が出演する由